



信州ESDコンソーシアム

—長野県から持続可能な未来へつなぐ学びのネットワーク—

信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 助教(URA) 本間 喜子

E SD とは？

ESD は、Education for Sustainable Development の略で、「持続可能な開発のための教育」と訳されています。現代の社会においては、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困、平和、人権など多岐にわたる問題が存在しています。その問題を一人ひとりが自分ごととして主体的に捉え、身近なことから取り組むことで、問題解決につながる新たな価値観の創出や行動の変容をもたらす、持続可能な社会を実現していくことを目指す学習・教育活動が ESD です。学校での ESD の展開は、子どもたちが主体的に問題や課題を発見し、自ら探究し、実践していくことで、価値観と行動の変容をもたらすことが期待されています。

こうした ESD の理念は、現行の学習指導要領にも明記されており、持続可能な社会の創り手の育成が学校教育全体の目標の一つとして掲げられています。

信 州 ESD コンソーシアムとは？

本コンソーシアムは、2017 年 2 月に信州大学教育学部を中心に設立された長野県内の ESD 推進組織です。ユネスコスクール、教育委員会、NPO、企業、大学など、多様なステークホルダーが連携し、地域に根ざした ESD の普及と実践に取り組んでいます。本コンソーシアムは、ユネスコスクールの活動支援や情報共有、交流の場を提供し、ESD に関わる全ての人々の協働のプラットフォームとして機能しています。さらに、第四次および第五次長野県環境基本計画において、長野県における ESD 普及・推進の主要な担い手と位置づけられています。

どんな活動をしているのか？

本コンソーシアムの活動は多岐にわたっており、主な取り組みは以下の通りです。

- ▶ ユネスコスクール加盟校やキャンディデート校（国内審査を終えユネスコ本部に申請中または行う段階にある学校）への出前研修・指導支援
- ▶ 学校や地域団体を対象とした ESD /SDGs 研修の開催
- ▶ 教職員・児童生徒・地域住民が学び合う「成果発表&交流会」の開催
- ▶ ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）と連携した ESD 実践
- ▶ 長野県内外の学校間ネットワークの構築と情報発信

▼R4 実践事例集



ユ ネスコスクールとは？

ユネスコスクールとは、ユネスコ（UNESCO）憲章の理念を実践する教育機関であり、世界 180 カ国以上で約 1 万校が加盟しています。日本国内の加盟校数は、970 校となり（2025 年 3 月時点）、1 カ国当たりの加盟校数としては、世界最多となっています。ユネスコスクールは ESD を推進する中核的な役割を果たすことが期待されており、ESD 活動を通じて、生徒たちに地球規模の課題を「自分ごと」として考える力を育てています。

長 野県内のユネスコスクールの取り組み

本コンソーシアム発足前は、県内ユネスコスクールはわずか 4 校でしたが、2025 年 3 月現在では、幼稚園から高校、特別支援学校まで多様な教育機関が参加し、25 校が加盟校またはキャンディデート校として活動しています。

(次ページへつづく)

例えば、長野市立東条小学校では、ナミアゲハやカイコの飼育、オオムラサキの保護活動、ホテルの生息環境の保全・観察、里山の植樹や整備活動を通して、地域の自然や生態系の大切さを学ぶ「生物多様性に関わる活動」と、福祉施設や国際交流、地域の人権集会での発表、なかよし月間による児童会主導のあいさつ運動などの活動を通じ、人権尊重や共生の心を育む「人権や福祉に関わる活動」を行っています。

また、山ノ内町立山ノ内中学校では、ユネスコエコパークを起点として、「地域活性化のために自分たちができることを考え、実践する」を目標に、3年間を通した体系的な ESD 活動に取り組み、地域の魅力発信や県外他地域からの学びから「町のために今・将来自分ができること」を構想し、総合計画に基づいて分野別に町づくりの提案をまとめ、「町づくり討論会」で町当局や議員、地元高校生、起業家に向けて発表するなどしています。

こうした事例は、ESD の実践が単なる知識の習得にとどまらず、実社会とつながる「生きた学び」であることを示しています。

信州 ESD コンソーシアム成果発表&交流会

「成果発表&交流会」は、本コンソーシアムが毎年2月頃に主催する、ESD 実践の発表と共有、小中高等学校の学校種の枠を超えた学校間交流の場です。2023 年度は延べ 1,000 人以上が参加し、長野県内外の児童・生徒が自らの実践を発表し、交流を行っています。

成果発表&交流会では、ユネスコエコパークを活用した探究活動の成果が紹介され、参加校間の交流だけでなく、海外(2024 年度はカンボジアの小学校)との国際交流も行われています。ICT(情報通信技術)の活用により、オンラインで誰でも視聴できるオープンな発信スタイルも注目を集め、世界に目を向け、自分たちが関わる地域の未来を主体的に考え、自ら実践する力を養っています。

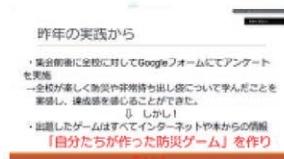
本活動を今後も継続させていくために、企業の皆様のご協力・ご寄附等を募っております。是非、信州 ESD コンソーシアムへの加盟、ご支援をよろしくお願いいたします。

会場⑤ の発表&交流会 共有

③【カンボジア】Svay Rieng Ahnuwat Primary School Grade5 & 6 School Police



④【長野県】豊丘村立豊丘北小学校 4学年 「楽しく」学ぶ防災ゲームを作ろう



◀ R6 成果発表 & 交流会



信州 ESD
コンソーシアム
HPはこちら



R5 成果発表 & 交流会 ▶





気候変動への
わが社の取組み

株式会社 U ホールディングス(北信支部)



当社および当社グループでは、2012 年 4 月よりユーグループを里親として、飯綱町(里子)、長野県(立会者)と協働の上、飯綱町桂山周辺の森林整備を行っています。

毎年春先に新しく区画を設け、「ヤマモミジ」150本の植樹を行い、年間(冬季期間を除く)を通して下草刈りや周辺整備を行い、生物多様性の維持に繋げることを目的に活動を行っております。また、整備を行っている区画は、2023 年に日本初の INWA 公認「ワールドカップノルディックウォーキングハーフマラソン長野 2023」のコースの一部として使用され、イベント参加者や通行者が気持ちよく自然の中を通れるような環境を整えております。その他にも、1976 年から現在まで長野県への「緑の苗木」を贈り続け、2025 年までに累計 25,672 本となり、環境問題や地域課題にも積極的に取り組んでおります。

また、ユーグループは、CO₂ 削減、エコ活動を目的とする森林の保護活動として、木々の植樹や山の草刈りを行い、地球環境の保全に取り組む基本理念の立場から、グループを挙げて里山の育成活動を推進しています。

県内の 8 割を森林が占める長野県にとって、里山の保護・育成は、持続可能な社会を作り上げていくうえで欠かせない手段です。里山(国有林)を保有し、CO₂ 削減、リサイクル、生物多様性の維持などのエコ活動を展開することで、積極的に長野県の自然環境保護に関わっていきたいと考えます。

また、里山の保護・育成活動等のグループとしての支援ばかりでなく、県内各地のユーグループ拠点の社員ひとりひとりが、企業市民として地域の皆様との交流を深め、エリアで達成できるエコプロジェクト

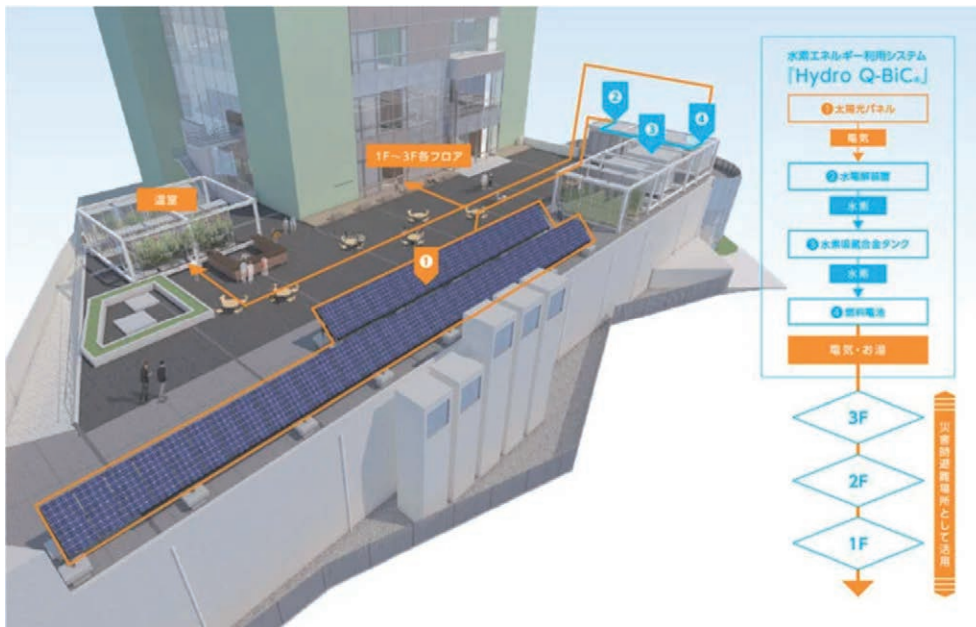


毎年定期的に行っている社員による森林整備事業の様子

の実現を目指します。

さらには、ユーグループ本社のプリズムビルは、ゼロカーボン化に向けた取り組みと地域の防災貢献の第一歩として、水素エネルギー利用システム[下図参照]を導入しました。システムから生成される水素は、再生可能エネルギーである太陽光発電によって作られる「グリーン水素」と呼ばれ、生成過程で CO₂ を排出しないクリーンな水素です。作る、貯める、発電する、すべての工程から CO₂ を排出しない、究極のゼロカーボンシステムです。

以上のように、U ホールディングスおよびユーグループでは、あらゆる側面から環境問題およびカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを行っております。



ユーグループ本社ビルに設置された地球に優しい効率的な循環型施設

建物 3 階の南端に設置された太陽光パネルで発電された電気は、電気分解装置で水素を発生し、吸蔵合金タンクに貯蔵されます。全体制御システムの制御により、必要な水素を燃料電池に送って発電し、建物のピークカット等に利用、非常時は非常電源と 1 ～ 3 階までの照明に使用されます。

気候変動への わが社の取組み

飯田信用金庫(飯田支部)



飯田信用金庫は2000年にISO14001を取得して以来、「地域環境・地球環境の保全活動に取り組むことの重要性を認識し、役職員一人一人が業務を通じて、地域の環境改善や文化創造への貢献に積極的に取り組む」という環境方針のもと、脱炭素に向けた取り組みを行ってきました。



カードゲーム「2050 カーボンニュートラル」
体験の様子

これまで、当金庫では各店舗の LED 照明化、太陽光発電設備の設置、電気自動車の導入など環境負荷を低減させる施策を進め、2022 年には本店ビルにて「信州 Green でんき」(CO₂フリーの電力)を利用することで、さらなる排出抑制に努めてまいりました。

2024 年度末には 2013 年度比 50%を超える CO₂ 排出量削減を達成しており、近々の目標として、2030 年 CO₂ 排出量 57%減(2013 年度比)を設定し、「e-dash」(CO₂排出量を算定・提案する新たなサービス=e-dash 株式会社提供)を活用のもと、ゼロカーボンに向けた歩みを進めているところです。

また 2022 年 6 月には飯田市が目指す「環境文化都市」の実現に向け、飯田市・長野県南信州地域振興局とともに市民参加型のプラットフォーム「うごくる。」の設立に携わり、カードゲーム体験会への職員参加、脱炭素経営に向けたセミナー開催などを通じ、地域が一体となって脱炭素に向かう意識を醸成する活動も行っています。

近年の気候変動には一企業の自助努力のみで立ち向かうことは難しく、地域と連携した取り組みが必要不可欠です。当金庫が本拠を置く飯田市においては『ゼロカーボンシティ宣言』がなされており、地域とともに歩む信用金庫として、また地域のリーディングカンパニーとして、2050 年のカーボンニュートラルとともに目指していきます。(総務部 勝村 黎)



■当金庫の環境負荷低減への取組内容



温暖化防止活動推進センター通信

第 12 期 県温暖化防止活動推進員、スタートです！

長野県は、第 12 期の地球温暖化防止活動推進員 47 名を委嘱しました(任期:2025 年 6 月～2027 年 5 月)。

同推進員は「地球温暖化対策の推進に関する法律」で位置付けられており、地球温暖化の現状や対策の重要性について住民の理解を深めることを主な役割としています。いわば“地域における温暖化対策のナビゲーター”ですね(^^)/

委嘱式

委嘱式は 6 月 13 日(金)に長野県長野合同庁舎で行われ、推進員を代表して佐久市の鈴木智子さんに、県環境部小林真人部長から委嘱状が手渡されました。



委嘱式



基調講演

基調講演

続く研修会では、前半に、「くらしふと信州」の運営委員でもある茅野恒秀先生(法政大学教授・信州大学特任教授)を講師にお招きし、「**2050 ゼロカーボン実現に向けた社会変革の『解像度』**」と題した基調講演をしていただきました。普段の講演では時間の制約で触れる機会の少ない話題を中心とした構成で、推進員の皆さんに新鮮な情報をご提供いただきました。

グループワーク

後半は、会場 4 グループ(A～D)、オンライン 3 グループに分かれてのグループワークです。

テーマは「**ゼロカーボンに向けて、県民に具体的な行動を促す**

ためには?」。導入として、県ゼロカーボン推進課 平林高広課長から、現在見直しが進められている「長野県ゼロカーボン戦略」について、戦略のポイント、分野別の 2030 年の目標、現在展開中の県の施策が紹介されました。その後、具体的な事例として、①EV への転換 ②通勤・通学時の公共交通利用の拡大 ③住宅の断熱化 ④住宅の屋根への太陽光パネルの設置について議論開始。1 つの事例について掘り下げるグループや、事例間の共通性から議論を広げていくグループ、基調講演の内容を踏まえ、「ゼロカーボン×○○」といった複合的な視点から検討するグループなど、多彩な議論が展開されました。

推進員の皆さんは、これから各地域で活動されます。

当センターでは、「地球温暖化について分かりやすく教えてほしい」「省エネについて詳しく知りたい」など、ご要望に応じて推進員を派遣しております。

会員の皆様、ご依頼お待ちしております\(^o^)/
詳しくは<https://nccca.or.jp/lecturer/>



グループワーク

第4回
環境展

自然との共生へ

～ 土壌の生物多様性がつくる健康・長寿～

7.29|火|－8.11|月祝|



八十二文化財団との共催により、第4回環境展「自然との共生へ」を長野市のギャラリー82で開催しました。

第1展示エリア「土壌の生物多様性がつくる健康・長寿」

これまで話題になることが少なかった“土壌の生物多様性”にスポットを当て、今回のメインテーマとし、その地球環境への影響と、人々の健康・長寿の関係について、横浜国立大学・福島大学名誉教授の金子信博先生、いのち育む農と食研究室の藤田正雄さんの資料と監修により、当協会が作成した40枚のオリジナルパネルで解説しました。また、土壌動物を生きたまま顕微鏡で見てもらいました。

8月2日(土)には、この分野の第一人者である金子信博先生によるミニ講座「人や緑の健康を支える土壌生態系」をロビーにて開催しました。県内各地から61名の受講者が来場、「耕すことが土壌生態系をこわす」という生態学的な視点からの講演を大変興味深そうに聴講され、質問の手も多く挙がりました。講義に引き続き、展示室内で、展覧会を企画した陸斉企画部長によるギャラリートークも行いました。

金子信博先生によるミニ講座



ミニ講座後のギャラリートーク



という生態学的な視点からの講演を大変興味深そうに聴講され、質問の手も多く挙がりました。講義に引き続き、展示室内で、展覧会を企画した陸斉企画部長によるギャラリートークも行いました。

第2展示エリア「脱炭素(デコ活・ゼロカーボン)」

開催期間中は、まさに“地球沸騰化の時代”到来を思わせる猛暑日が続きましたが、第2展示エリアには、「デコ活(脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動)」コーナーと、当協会が毎年続けている小中学生向けの「2050 ゼロカーボン」コーナーを設けました。お馴染みの

デジタル地球儀「触れる地球」を出展。「準リアルタイム」のコンテンツでは、7月30日にカムチャツカ半島で起きたM8.8の巨大地震が群発する様子も確認できました。

また会期中に、旧暦の七夕があることから、「竹紙」(国産の間伐竹パルプ100%紙を株式会社アルキャスト様よりご提供)を短冊にし、来場された方に「未来の地球」への願いを書いて飾っていただきました。



新会員紹介

一般社団法人 自然エネルギー信州ネット

一般会員

北信支部

ご寄付
の御礼

日高金属株式会社様より、八十二銀行の「地方創成・SDGs 応援私募債」による手数料割引分をご寄付いただきました。
環境保全活動に使わせていただきます。ありがとうございました。

【発行元】〒380-0835 長野市新田町 1513-2 (82 プラザ長野)

□「エコシン」は「エコ信州」の略称です
2025年9月9日発行

●一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL:(026)237-6620 FAX:(026)238-9780 E-mail:nace@janis.or.jp https://nace.main.jp/

●長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6625 FAX:(026)238-9780 E-mail:nccca@dia.janis.or.jp https://nccca.or.jp/

●長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6681 FAX:(026)237-6690 E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp https://www.eco-mame.net/

